

関係副詞で話す・書く (標準)

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール: 思い出の場所を関係副詞で紹介し、まとまりのある英文で書ける

モデル モデル (先輩の書いた例。声に出して1回読もう)

The library near my house is the place where I spent most of my third year.
家の近くの図書館が、3年生のほとんどを過ごした場所だ。

I still remember the day when I finally solved a problem I had gotten wrong three times.
3回まちがえた問題をやっと解けた日を今も覚えている。

That is the reason why I go back there whenever I need to think.
だから、考えたいときはいつでもそこへ戻る。

型で書く 型で書く—自分のことを3文 思考・判断・表現

内容は自由。形だけ型どおりに。書けたら隣の人と交換して、**関係詞のうしろの文がそろっているか**だけを見合おう。**気づき**: the town where I stayed と the town which I visited は先行詞が同じ「町」なのに関係詞が違う—決めるのはうしろの文です。

(1) _____ is the place where _____. 自分にとって意味のある場所と、そこで何をするか

(2) I still remember the day when _____. 忘れられない日と、そこで起きたこと

(3) That is the reason why _____. だからどうしているか

ペアで話す ペアで話す—「わたしの場所」インタビュー

交代で質問→答えは1文+ひとこと補足。答えに Really? Tell me more. を1回は返す。**気づき**: wherever / whenever を1回ずつ使ってみよう—I go there whenever I have time. (時間があるときはいつでも)。

(1) Where is the place you go when you want to be alone?

ひとりになりたいとき、どこへ行く?

(2) What is a day you will never forget?

絶対に忘れない日は?

(3) Is there a reason why you chose this school?

この学校を選んだ理由は?

(4) Is there a place where you go every week?

毎週行く場所は?

あいづち・返しの型: Really? Sounds nice. Tell me more. I know that place. Same here.

関係副詞で話す・書く (標準) | 自分の番

年 組 番 名前

書く 自分の番—60語前後で書く 思考・判断・表現

Introduce one place that means something to you. (自分にとって意味のある場所を1つ紹介する)
①どこで、そこで何をするか ②そこにまつわる忘れられない日 ③だから今どうしているか—の3段で、60語前後。関係副詞を3文以上で使う。

評価 先生はここを見ます (加減点式)

関係副詞を3文以上、正しく使えている (うしろの文がそろっている)	+4点
「場所→忘れられない日→今どうしているか」の流れがある	+3点
自分にしか書けない具体がある (固有の場面・理由)	+2点
50語以上書けている	+1点

※減点式にしない—書いた量と伝わった中身を評価します。細かい誤りは返却後の書き直しで扱います。

振り返り ペアで読み合って、相手の文でいちばん良かった1文をメモ